

会 議 録

会議名	第4回 カリヨンハウス利活用検討委員会
日 時	平成24年11月16日（金曜日） 午前9時30分から正午まで
場 所	三好丘交流センター 多目的会議室
出席者 (敬称略)	鈴木一利、大塚誠之、石川育生、佐宗正行、福岡辰彦、山根隆、青木幸雄、鳥居鎌一、 岩本哲也、加藤實（代理：谷洋幸）、高橋真、古市修康、藤野昭彦、黒木洋治、 村上美穂子、富田正（顧問）、林徳秋（顧問） 鈴木政策推進部長、藤根政策推進部次長 企画政策課：柴田課長、村田副主幹、芳村主査
次 第	1 あいさつ 2 協議事項 （1）カリヨンハウス利活用のための機能配置について （2）その他
会 議 録	
委員名	質 問 ・ 意 見
1 あいさつ	
石川委員長	カリヨンハウス利活用検討委員会が発足して、暑い季節から寒い季節に変わってきた。事前に送られてきた資料を見ていただいても分かるように前回決めた内容は、厳しい状況にあります。そうはいつでもこの中で決めていかなければなりません。最終的にはこのように進めていきたいと思いますという利活用検討委員会の目的を達成できるように委員の皆さんの英知を結集していきたいと思えます。
鈴木政策推進 部長	第3回利活用検討委員会でサンネット以外の配置についてご提案いただきました。その後、事務局で民間の進出意向を確認させていただきました。まだ、保留のところもありますが、後ほど説明させていただきます。本日の協議事項は、カリヨンハウス利活用のための機能配置についてとなっています。各委員の忌憚ないご意見を賜りご協議いただきますよう、よろしく願いいたします。
協議事項（1）カリヨンハウス利活用のための機能配置について	
事務局 (課長)	資料「カリヨンハウスへの進出意向確認状況」は、11月9日現在で作成していますが、本日までに意向が判明したところがありますので、時点修正をお願いします。 コンビニ事業者「現在回答待ち（2社）」とありますが、形態を変更して再検討が1社、見送りが1社となりましたので、見送りの合計が5社となりました。 カフェ・ベーカリー「可能性あまりない（1社）」とありますが、出店見送りとなりましたので、出店見送りの合計が2社となりました。 資料「（1）カリヨンハウス利活用のための機能配置について」の中で1階1-Aに「①多目的セミナー室」となっていますが「②多目的セミナー室」に、「②高齢者のふれあい」を「③高齢者のふれあい」に訂正してください。

石川委員長	委員会で第1優先としたコンビニは、2-Aと1-Cに出店の意向があるということでした。また、カフェ・ベーカリーを2-Aということであったが、感觸的には非常に厳しい状況であることがわかりました。今回の委員会ではこの辺が論点になると思いますので、これらの意向を踏まえて、委員から意見・質問などありましたらお願いします。
藤野委員	1-Bの③防犯パトロールの基地は、市中心部で集約ということと1-Aの⑤ボランティア拠点は福祉センターのボランティアセンターとあります。三好丘地区も高齢化が進んでおり、市中心部に拠点を集約することは車が必要になるなど利便性の悪さがあります。そこで今回の資料を見てみると出店の意向が多くないということです。暫定的にこれらのスペースを取って様子を見てみて、防犯活動やボランティア活動がより活発になる可能性があれば暫定利用の中で判断していけるとと思いますので、これらのスペースを残していただきたいと思います。
事務局 (課長)	即答は難しいですが、それぞれを所管している防犯担当、福祉担当と協議した結果、元々現在でも機能している防犯パトロールの拠点は市中心部、ボランティアの拠点は福祉センターで行っていただくことを考えています。今のご意見は担当課に伝えて協議させていただきます。
石川委員長	今のご意見とも関連するのですが、1-Aや1-Bについて事務局からたたき台が出されました。その辺りを再確認させていただき、コンビニなどは後から議論したいと思います。
福岡委員	1-A③高齢者のふれあい(憩いの家的なイメージ)について「拠点施設整備についての検討課題」とありますが、どこが判断されたのか。
事務局 (課長)	協働推進課です。
福岡委員	配置素案の考え方の所に×が打ってあるところの判断は、それぞれの所管で検討された結果として記載がされているということなので、検討した部署を書類の中に入れておいたほうが良いと思います。
佐宗副委員長	⑤ボランティア拠点③高齢者のふれあいスペースについてどこを指しているのか。
事務局 (課長)	⑤ボランティア拠点については、福祉センターです。③高齢者のふれあいスペースについては、拠点施設を市内3か所に将来的に整備することを予定しています。それぞれの拠点施設で高齢者のふれあいスペースを考えていこうということです。
佐宗副委員長	それは、カリヨンハウスではないということですか。
事務局 (課長)	カリヨンハウスではなく、例えば三好丘交流センターも1つの候補として考えています。拠点施設に同じ機能を設けるため、カリヨンハウスでは機能の重複になるため設けないということになりました。
福岡委員	拠点施設整備の時期はいつ頃ですか。
事務局 (課長)	市の総合計画に拠点施設について明記されているのですが、最終的には3か所整備しますが、まずは平成30年度までに1か所目を整備する予定となっています。

福岡委員	1か所というのは三好丘地区にできるということですか。
事務局 (課長)	確定はできないですが、他の地区にあってここにはないものがありますので、優先順位的には三好丘地区が高いと思います。
福岡委員	区民や老人クラブに説明するにあたり、今のようなお話も明記していただくと説明がしやすくありがたいです。
石川委員長	この件については議事録で明記してください。
高橋委員	「1-Bの東海学園大学と地域活動のコラボエリア機能」とありますが、具体的にはどのようなものですか。
事務局 (課長)	現在、東海学園大学とは包括協定を結んでおり、機能別消防団、三好丘小学校の登下校の見守りを学生に行っていただいています。それらの活動拠点となるようなスペースを考えています。
高橋委員	具体的には常駐されるのですか。
事務局 (課長)	常駐は難しいと思いますが、学生が活動する前後にそこに立ち寄ることになるのではないかと思います。
高橋委員	イメージが湧かないですが、そのスペースは、学生が集まるスペースというものですか。
事務局 (課長)	一旦そこに集まって、例えば三好丘小学校の見守りに行ったり、機能別消防団の活動の拠点として利用したりしていただくことを考えています。
高橋委員	その必要性はあるのでしょうか。
古市委員	加藤委員は、公開セミナーのようなものも開催したいとおっしゃっていた記憶があります。
事務局 (課長)	それは、50人程度の多目的セミナー室を1-Aでスペースを作り対応していく予定です。
高橋委員	決して邪魔をしているわけではないのですが、一部の機関のためにスペースを作るのは公的なものとしては熟慮が必要だと思います。
事務局 (課長)	東海学園大学とはみよし市と包括協定を結んで、協力関係を密にしていきたいと思います。その関係もありこのスペースを設けています。

<p>加藤委員 (代理：谷氏)</p>	<p>包括協定の締結ということで、あらゆる面で大学とみよし市とさらには地域との連携を深めていきたいという立場に立っています。具体的に、機能別消防団、防犯ボランティアの拠点でありますし、もちろんそれだけではなく中長期的に市と協議しながら地域の方々に貢献するのは大学の責務ですので、積極的にやっていきたいと思いません。私どもの大学は、名古屋キャンパスを含めると教員が120人、学生数は4,000人の規模ですので大学としてのマンパワーは潜在的に持っていると思っています。そういう意味で学生も教員もそうですが、いろいろな分野で協力が可能であると考えています。特に三好キャンパスではスポーツと健康を研究する学部が1つ増えています。そのことから、高齢者健康をはじめとした健康相談、スポーツをからめた拠点としてもやっていけるのではないかと考えています。今の時点でこれとこれをやるというところまで大学の内部では検討を進めていますが、明確なものはありません。将来的に3年ぐらいの計画をしながら、みよし市と充分検討して、公益事業として整えていきたいと考えています。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>例えば、目的がはっきりとわかってきて、このスペースが必要だとされるのであれば良いのですが、まずスペースを確保して、次に使い方を考えましようというのでは話としては逆であると思います。他の機関がとりあえずスペースを確保したい、使い方は後から考えたいというところが出てくれば、そことの兼ね合いはどうするのかという話もあります。具体的に使い方を示されてスペースを確保したいというのであれば理解がされると思います。</p>
<p>石川委員長</p>	<p>今の時点では、この機関が確実に配置されるという段階ではなく、あくまで候補という形で提案があったと思います。ですから、候補として外すか外さないかという話だと思うのですが、当然候補としてあげておいてもいいと思います。他にスペースのやりくりが上手くできない場合は、優先的に配置されるという判断でいかがでしょうか。</p>
<p>岩本委員</p>	<p>その考え方に賛同します。1-Bで固定なのか、1-Aの多目的セミナー室でまかなえるのかという範疇は選択肢として残しておいても良いのかなと思います。</p>
<p>大塚委員</p>	<p>そのスペースは、普通のテナント賃貸料が発生するスペースという位置付けですか。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>大学に貸す場合は、無償と考えています。</p>
<p>大塚委員</p>	<p>大学が近いから拠点で集まってもらえば良いというのではなく、無償提供するのであれば、あっても良いですが、包括協定結んでいるからとかではなく、明確な目的をはっきりしてほしいとは思いません。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>人がここに集まることも重要な目的ではあるので、学生がこの施設に出入りしていただくことによって、この施設が活性化されることを期待して配置した背景もあります。</p>
<p>大塚委員</p>	<p>そのような背景であるならば、ボランティアの方でも利用できるなど、もう少し広い意味にしてもっと自由に利用できるやり方もあると思います。その辺りで包括協定があるから東海学園大学だけというのではなく幅広く利用できればより良いと思います。</p>

高橋委員	一般的に言って、学生の年代が集まるスペースというのは管理が非常に難しい面もあります。その点も踏まえてもう少し上手い利用はないかなと思います。
岩本委員	大学と行政が包括協定を結ぶというのは最近の流行みたいなものですが、肝心なのは学生が集まる場所であれば、大学の中で良いと思います。なぜ駅前の公的な場に必要かという、学生の活動を通じて地域の人たちと触れ合いたか交流があるというのが一番肝心なところだと思います。ぜひ、中身の協議を密にさせていただきたいと思います。
加藤委員 (代理：谷氏)	もちろんそれが目的です。学生をいかに使うか。それが今後の大学内での課題となります。積極的にやっという気持ちがありますので、スペースを、もしいただければ、積極的に方針に沿って人を育てながら協力していきたいと思いません。
事務局 (副主幹)	今回の案を出させていただくにあたり、今の話に関する部分では、私どもで聞き取りもさせていただきました。その中で加藤委員は、地域のコラボエリアということで花作りをやって駅の周りを飾ってみたいということも言われ、そういう拠点が欲しいという提案でした。ラジオラビートの出店意向を確認すると同時にですが、東海学園大学の中にも放送関係の学部があり、そこのコラボもできるので拠点が近くであれば学生を取り込んで放送もできるということでした。これ以外にも地域とのコラボについては可能性が大いにありますので、この配置を提案させていただきました。
石川委員長	三好丘で防犯パトロールや花作りなどいろいろなことをやっていますので、将来的に拠点で学生と一緒にできることは良いことだと思います。
村上委員	前回の委員会で加藤委員が言ってみえた経営相談や法律相談は、1-Bではなく1-Aの中でスペースが欲しいということなののでしょうか。
事務局 (課長)	単発的な事業については、多目的セミナー室を活用していただく予定でいます。地域とのコラボエリアは、継続的な事業について活用していただく予定でいます。場合によっては、1-Bで相談事業を行うこともあるかとは思いますが、基本的には多目的セミナー室を活用していただくこととなります。
村上委員	それは東海学園大学に限定せずいろいろな人が利用できるということですか。
事務局 (課長)	多目的セミナー室は、基本的には東海学園大学と愛知学泉大学と市がタイアップした事業を優先的に利用していただきますが、空いている日は地域の方が利用できるように検討したいと考えています。どのような形で利用していただくかはこれから詰める必要がありますが、利用率をあげることが最大の目的であると考えていますので空いているときには積極的に利用していただけるような方策を検討したいと思います。
福岡委員	1-B②ベーカリー・洋菓子は、メーカーが採算性の面から出店するのが難しいと判断したということですか。
事務局 (課長)	ベーカリー・洋菓子に限らず、今回はチェーンで展開している企業に照会をかけました。最低の売上げ、1日あたりの損益分岐点を満たす売上げをあげることが非常に厳しいという結論をいただいています。
福岡委員	むこうからここに出店しても採算性がとれないからダメだという判断があったから、計画から抹消していくということですね。

事務局 (課長)	それと、まずコンビニを入れることを最優先したいということでしたので、コンビニと一部競合する部分があるところは共倒れの危険性があるので、今回の判断となっています。
福岡委員	1-A②多目的セミナー室（音楽活動ができる防音機能）とありますが、このイメージはどのようなものですか。
事務局 (課長)	複合施設の検討の中でも検討されたのですが、完璧な防音ではなく若干外の音が遮断できる防音機能を備えた部屋にしたいと考えています。
福岡委員	多目的セミナー室で例えばコーラスの練習をしたいという申込みに対しては対応できるということですか。
事務局 (課長)	対応することもあり防音を考えたということです。受入れを考えています。
石川委員長	完全な防音というのは、例えば音楽スタジオのようなもので、そこまではできないということですね。
事務局 (課長)	はい、その通りです。
佐宗副委員長	スペース的には、これからの検討の中である程度決めていくという解釈で良いのでしょうか。
事務局 (課長)	多目的セミナー室は、50人程度収容の広さを大学からの要望としていただいています。例えば50人収容スペースと30人収容スペースという方法もあるでしょうし、50人収容スペースと80人収容スペースという方法もあると思います。それはこれから配置を検討していく中で大学とも詰めていきたいと思っています。
佐宗副委員長	そうすると例えば50人収容のスペースを防音にするとかということが可能ということですね。
事務局 (課長)	そのように考えています。50人収容のスペースをつくることはほぼ確定で、配置をした結果20人収容のスペースができるのであれば、使い勝手の面からも大きさの違うスペースがあるのは便利ですので考えていきたいと思っています。
藤野委員	スタジオとは別ですか。
事務局 (課長)	ラジオラビートとは別です。
藤野委員	そのラジオラビートも防音ですか。
事務局 (課長)	最初は完全な防音が必要だと思っていたのですが、ラジオラビートと話をしている中で、外の音が入った方が良いということで、防音はしない予定です。
福岡委員	多目的セミナー室には、ピアノを入れたいという希望がある場合は対応できますか。
事務局 (課長)	そこまで具体的な検討はしていませんが、公開講座などをやることを主目的に考えていますのであまり障害になるような備品は置きたくないのですが、今ここでできるともできないとも回答を申し上げることはできません。

古市委員	ラジオラビートだけではなくひまわりネットもあるので、どちらでも活用できる形にしておけば、地域活動の紹介を両方の媒体からやってもらえるなどメリットもあるので検討していただければと思います。
村上委員	要望ですが、福岡委員がコーラスも利用可能かという質問をされて、可能だと回答いただきましたが、現在北部地域ではコーラス活動をされている団体がいくつかあります。ピアノが使えないということからキーボードで練習しているとのこと。市の主催される発表会などに向けて練習する際も同じくキーボードで練習されている現状とのことですので、是非多目的スペースにはピアノを置いていただきたいと思います。
岩本委員	ラジオラビートの使われる頻度はどのくらいでしょうか。
事務局 (課長)	それはこれから詰めていくことになるのですが、当然毎日はありません。できるだけ利用していただこうと考えていますが、東海学園大学の名古屋キャンパスに放送に関係する学部があると聞いていますので、そちらでお使いいただくことも考えています。ただし、放送をこちらでやっていただくと費用が発生します。お金さえ払えば毎日可能かもしれませんが、現実問題としては毎日というのは難しいと思います。週1回とか週2回が限度だと思いますが、ここは詰めている段階ですので明確に回答を申し上げることはできません。
山根委員	ここでは、配置する機能を議論して、個々の部屋にどういったものを置くかというのは後の問題だと思いますので、踏み込むのは遠慮していただきたい。
村上委員	すみません。ただ要望として発言させていただきただけでした。三好丘は昭和63年に街開きされて、その時のコンセプトが「アートのある暮らし」ということでした。彫刻フェスタやカリヨンコンサートも開催されましたが、アートというと絵画や彫刻だけではなく広い意味で音楽も含まれると思います。その時のシンボルとしてつくられたカリヨンハウスには音楽を発信できるような機能があっても良いのではないかとということで参考意見として発言させていただきました。
藤野委員	防音機能という話では、前回の委員会の中で発言させていただきましたが、地域の中での騒音トラブルは多い状況で、そういうものもこのような場所で毎日ではなくても使えるというのは、防音の提案趣旨の1つでもあるので個々の団体に限定しなくても良いですので、市価よりも割安が良いと思います。有償が良いと思います。使っていただければトラブルの解消にも役立つので、あまりガチガチに全部決めてしまわず、ゆるく機能を決めていけば良いと思います。先ほどからピアノの話も出ていますが、他の多くの楽器は運べるのに対してピアノは運べませんので置くのは当たり前だと思います。市が置かないのであれば行政区でお金を出しても置けるのではないのでしょうか。そういった意味からも方向性だけゆるく決めておけばいいと思います。
黒木委員	そこまで音楽ができる場所にこだわるのであれば、なぜ音楽室という名前にしないのか。多目的セミナー室と音楽室があるとうたった方が一般の方にはわかりやすいと思います。

事務局 (課長)	今日の話の中で音楽ができるスペースという方向に傾いていったのであって、提案としては大学とコラボをして市民公開講座を開催していただくためのスペースとするのが目的であって、空いているときは利用できるようにしたいということですので、音楽室をつくるのが目的ではありません。
黒木委員	だとしても、音楽をやることができるスペースであることがわかる名称とすべきだと思います。
事務局 (課長)	名前に関しては、今後機能が確定してから検討させていただきます。
石川委員長	今は、配置機能を決めている段階ですのでネーミングは今後の議論にさせていただきますと思います。
村上委員	50人収容できるということなので、多目的セミナー室ではなく、多目的ホールにしておくと広く利用できるのではないのでしょうか。セミナー室だと講座や講習にしか利用できないイメージがあるのでホールという言い方でも良いかと思います。
石川委員長	今日は、機能配置を決めて、その上で絵を描いていただき、この場所でこのようなことができますよということをイメージできるようにして、次回で最終的に決定していきたいと思います。 先ほど出ました50人収容の部屋はどれぐらいという大きさのイメージが私たちにはわからないので、配置図をつくってイメージ共有できればと思います。
事務局 (課長)	50人収容のスペースというと、学校の教室が45人程度でしたので、それをもう少し広くしたぐらいの大きさかなと思います。添付した図面を見ていただくと、1マスが8m×8mですので、1マス×1.5マスぐらいかと思います。割り付けは次回までに考えていきたいと思います。
石川委員長	基本的な配置としては、1-Aでは①子育てふれあい広場、名称は別として②多目的セミナー室は確定と言えるのかと思います。1-Bについては、ラジオラビートと大学などのコラボエリアというような機能にご賛同いただけるのであれば、それに基づいて絵を作ってくださいということでもよろしいでしょうか。
高橋委員	1-Bの地域活動コラボエリアという機能であれば良いですが、東海学園大学のためのスペースであれば反対せざるを得ないです。いくら包括協定があるにしても、特定の組織のために無償で分庁舎に配置するのはどうかと思います。地域活動コラボエリアとしてNPOとか大学が使えるようにした方が理解は得られるのではないのでしょうか。
事務局 (課長)	公共性がなければ利用していただくことはできないので、公共性のあるものをやっていただく場合に限ります。
石川委員長	1-Aは、多少スペースが残るかだと思います。子育てふれあい広場は、以前2-Aにあったわけですから230㎡程度のスペースと多目的セミナー室を入れても多少スペースが残るために、残りのスペースをどのようにしていくか考えなければいけないと思います。
黒木委員	子育てふれあい広場の広さはどのくらいなのでしょう。
事務局 (課長)	2-Aに配置したときは、120㎡程度を考えていましたが、広ければ広いほど遊ぶ面積が増えますので120㎡にはこだわっていません。

黒木委員	それであれば、今の状態でも結構良い広さになってくると思います。
石川委員長	1-Aは、2つぐらいの機能だけで使いきれののかなと思います。管理事務所はどうするのでしょうか。
事務局 (課長)	管理事務所は、1-Aにつくる予定ですし、トイレも1-Aの中につくることを考えています。
石川委員長	今のトイレは、治安上よくないと思います。
事務局 (課長)	その辺りの事情も考慮して、今のトイレは、イベントスペースの倉庫のような使い方をして、身体障がい者の方が利用できるようにとか、子育てふれあい広場が配置されるのであれば、小さなお子さんをつれて一緒に入れるようにとか、多目的に利用できるトイレを1-Aの中に新たに設けたいと考えています。
山根委員	トイレのことは非常に重要なことだと思いますが、1-Aは基本的に何時から何時まで開けることを前提で考えているのでしょうか。1-Aが閉まってしまうと、1-Bからも1-Cからも利用できなくなってしまいます。
事務局 (課長)	管理方法についてはまだ確定していません。現在シャッターがありますが、そのシャッターをどこで下ろすのか、夜間どうするのかということは、現在内部でも検討していますが、機能配置によっても管理の方法が変わってくると思います。機能配置が確定して、例えば1-Aの中に自由に通行ができる廊下をつくって対応するという案もあると思います。
山根委員	時間としては流動性があると考えて良いのですか。
事務局 (課長)	はい、あまりがんじがらめにはいけないと思います。
石川委員長	24時間利用が可能とするのかということですよ。
事務局 (課長)	まずは、24時間利用可能とするかを第1段階で、24時間でなければ何時から何時とする検討が次にされると考えています。ここはもう少し内部で庁舎管理について検討を進めたいと思います。
福岡委員	1-Aについては、子育てふれあい広場と多目的ホールに意見が集約されてきたようですが、それぞれの間には間仕切りをするということで良いのでしょうか。
事務局 (課長)	1-Aのスペースは、現在使い勝手の良い形で区切られていませんので、廊下や壁を付けて区切っていきます。
福岡委員	2階と1階の移動は、エレベーターがあると考えて良いのでしょうか。
事務局 (課長)	エレベーターについては、後ほど改修図面で説明させていただきますが、エレベーターは今回の改修工事で設置をしていきます。
藤野委員	1-A 900㎡の中で全部埋まっているわけではなく、レイアウトされてから商工会の議論をされるということによろしいのでしょうか。
事務局 (課長)	そうではなく、商工会の意向をお聞きした結果を反映させていただきました。

藤野委員	商工会は消えていないということで良いですか。
事務局 (課長)	はい、消えていません。
鳥居委員	駅前のカリヨンハウスを市が取得されて、利用について検討する会議に参加させていただきました。われわれ商売人は、あくまで採算が合わないことにはやっていけません。例えば、コンビニが出店されても採算が合わなければ撤退されてしまうことと思います。市内のいろいろな場所で貸し店舗によって商売をされている方がみえますが、貸し店舗で商売される方はテナント料を重視されます。今回、カリヨンハウスの中にある程度のスペースをいただけるのであれば、少しでも安く良い物を提供していきたいなと思います。できるだけ早く子育てふれあい広場でどれぐらい必要であるとか、コンビニでこれぐらい必要であるとかをレイアウトしていただくと、これぐらいのスペースが空きますので商工会でどうですかということであれば、受けてたちます。もう1つお願いするのは、相場はあると思いますができるだけテナント料は下げたいと思っています。この地域にできるだけ安く良い物を提供していきたいと思っていますので、是非スペースをつくっていただきたいと思っています。
村上委員	子育てふれあい広場の機能はどのようなものですか。遊ばせるだけなのか、子育てサークルが使えるのか、預けることができるのか。前は岩本委員から駅前という立地状況から学童という話も出ていましたが、どのような機能となるのでしょうか。
事務局 (課長)	まず、預けるところではありません。預けるところは民間が駅前に展開していますのでそちらに委ねています。イオン三好店の中にあるものと同じものができるというイメージをしていただくと良いと思います。親子でここを訪れていただいて子どもを遊ばせる。また、育児に関する相談を受け付ける職員を配置するので育児に関する相談に訪れていただく。親子で来たお母さん同士が情報交換していただく。近隣ですと豊田市の松坂屋の9階にあるものですか、東郷町のいこまい館の中にあるものですかがほぼ同じイメージであると思います。
福岡委員	私も松坂屋の9階に行きましたが、このような施設になると良いなと思っていました。
大塚委員	元々賑わいをつくりたいという話もありましたし、商工会からはスペースをもらいたい、公共スペースも増やしたいという中で、公共スペース、階段・廊下・通路の共用スペース、有償スペースの割合はどれぐらいでしょうか。前回お願いしましたが、全体で1,300㎡程度しかなく、1-D350㎡分の壁をつくると、スペースが3割増しとなります。建物全体の取得費の3億1千万円に加えて、改修費用はどのくらいになるのでしょうか。予算総額は分かりませんが、税金を使うとしても、ある程度の改修費増加は許容されるように思います。壁の建築費がいくら掛かるとしても、有償スペースが増えるのであれば良いと思います。要は予算をどれぐらい考えているか、有償テナントスペースはどれぐらいあるのか、公共スペースはどれぐらいあるのか、壁をつくる費用はどうだということを合理的に考えていただきたいと思っています。
黒木委員	壁代だけでは済まないと思います。

大塚委員	もちろん壁、床なども含めてどうかということです。今のままいくと有償部分は300㎡も残らない可能性がある。倍増ということになっても、税金投入してそのレベルで良いのかということです。3億1千万円で購入して改修費をかけて壁代がどれぐらいの割合になるのか。有償スペースが増える割合と壁床改造する費用との兼ね合いはどうかということを検討委員会の最後までには明快にしておいた方が良くと思います。
黒木委員	有償スペースが本当にどれだけ必要なのかということはしっかり検討する必要があると思います。
大塚委員	全てが公共だというなら公共の将来像を示さなければならないと思います。にぎわいを創出するという話の中で民間施設を誘致しようという段階では、ある程度の有償スペースが考えられていたはずで、今回は無理でもしっかりと考えていくべきだと思います。
事務局 (課長)	今回、いろいろと企業にあたっていた中で、ある金融機関で1-Bでは狭く、1-Aでは奥に行き過ぎるので、このイベントスペースと書いてあるところに壁をつけて貸してくださいという話がありました。結局その金融機関は、金融機関内部で検討したところ、ここには出店しないという結論となりました。出てくるものがない状態でここに壁を作って有償スペースを設けることは非常に難しいと考えています。
大塚委員	市民から言われてあわてて3億1千万円出して買ってしまった事実があり、その中でどうなんだということを明確にすべきだと言っているだけです。本当にニーズがないのか、全体では350㎡いらないかもしれないが、商工会やいろいろなテナントをあわせるとニーズはあるよということかもしれないし、いくらなんだかをはっきりした上で、本当に有償スペースがこれだけしか残らないけど、増やす価値はないということ、金額を示して明快に合理的に市民に見せるべきではないですかという意見です。
黒木委員	それでも、そのイベントスペースには最初から農産物直売エリアが希望としてあがっていました。これを削ってしまって良いのでしょうか。
大塚委員	それは、壁で囲って使うという使い方もあるかもしれませんが。防犯の面から悪いということも壁で囲うことによってクリアできるかもしれない。広場に使うならスケルトンの形でも良いのではないのでしょうか。壁だけだったらどうか、テナント用にきっちり改修したらどうか明確にして、残ったスペースから最適な方法を判断するための材料があっても良いと思います。
青木委員	その話は、まだ後からで良いのではないのでしょうか。
大塚委員	検討されてなさそうなので検討してくださいというお願いです。

石川委員長	<p>今回の議論の中で重要な点は、最優先で入れたいコンビニをどこに入れるかということがあります。前回の会議の中で優先順位をつけた中で、1-Cにコンビニ、2-Aにはカフェなどを入れたいと基本的なことを決めました。今回の事務局からの報告にあったように、カフェなどの出店の意向が難しい状況にあると思います。特にベーカリーは商売的にバッティングするということで、1-Cでも2-Aでも同じことかと思えます。今の状況では、1-Cでも2-Aでもコンビニの応募はありそうだとところで、どちらに出店してもらった方がにぎわい創出につながるのか、場所を考えても良いのかなと思っています。</p> <p>2-Aは、1-Cにコンビニが入った場合、カフェというのはより厳しい状況になります。例えば、商工会で出店希望を募っていただくなど手立てが講じられるのであれば、このままでもいいと思いますが、それが見込めないときは2-Aにコンビニが出店していただいた方が明かりという面では良いのかなと思いますが、みなさんのご意見はいかがでしょうか。</p>
福岡委員	<p>2-A、1-Cどちらでやりたいかをコンビニ業者に決めてもらうのが大事だと思います。</p>
事務局 (課長)	<p>公募があったら応じてもいいと言った業者が2社あり、1社は2-A、もう1社は1-Cで考えているという回答でした。</p> <p>公募の方法としては、例えば2-Aでも1-Cでも良いですよという公募のかけ方が1つあります。この方法だと家賃が高い方に決定することになると思います。</p> <p>もう1つは、この委員会で決めていただくのですが、例えば2-Aに入ってもらおうと決定したならば、2-Aだけでコンビニを募集するという方法もあります。逆に1-Cでというのもあります。この方法をどうするかというのが悩ましいところで、2社ではなく3社意向があって、2対1となれば結論が出てきたと思うのですが、1対1となったために公募の方法でも悩むこととなっています。</p> <p>それぞれお話を聞いていると、2-AはペDESTリアンデッキから入り口まで30m奥まっているので、人が30m歩くのは目的がないと歩かないから2階はダメですという話や、1-Cの前は調査をしたところ200人から300人しか歩かないために1階はダメですという話もありました。長い間この施設で営業を続けていただくために利益をより上げていただくほうに入っていただくのは当然ですが、2階のサンネットのことや前回の資料で駅から見た電気点灯状況の写真の状況を考えあわせると2-Aの方が良いのかなと個人的には思います。</p>
岩本委員	<p>どちらが良いかはコンビニに聞くしかないと思っています。コンビニ目線でいうと2階に出店する場合のターゲットは歩行者で、1階に出店する場合のターゲットは車利用者であると思います。</p> <p>カフェ・ベーカリーは、チェーン店に出店意向調査をされているようですが、この辺りのカフェ・ベーカリーは個人事業者が多い業態となっています。カリヨンハウスの2階は、駅から一番目に付きやすく顔になるところですので、もしやる気のある事業者があるようなのであれば、なんらかの意向調査をしていくというのはいかがなんでしょうか。</p>

事務局 (課長)	個人事業者に1件1件尋ねていくのは難しいので、商工会の事務局にはこの情報を出しており、情報収集をお願いしています。実際には、個人事業者が2店目を出すというのは、後継者がいるか規模を拡大するか、かなり限定されるので現実的には難しいと思っています。
岩本委員	専門学校や料理学校には確認されたのでしょうか。
事務局 (課長)	確認していません。
岩本委員	これから店を持ちたいという若い方が出店できるようになっても良いかと思いません。確かに既存で店舗をお持ちの方が2店舗目というのは大変なことだと思います。
高橋委員	コンビニの営業時間はどうなっていますか。
事務局 (副主幹)	これからの検討になりますが、基本的には始発から終電までを最低限にして24時間にするのかどうかを検討していく予定です。あくまでも24時間が前提ではありません。
福岡委員	1-Aの方向性ですが、1-Aの中に商工会はスペースを確保したいということですか。
鳥居委員	いえ、カリヨンハウスの中であればどこでも結構です。これだけのスペースを使用して良いですよということを明確にしていきたいと思います。 商工会にテナント募集をしてもらいたいということであれば、募集しても良いです。 また、別の話になりますが商工会として、イオンの近くの153号バイパスの下にトンネルがあり、そこを借りて事業を進めています。これから市内全域で事業を進めていきます。
福岡委員	商工会からの話を聞いて、1-Aには子育てふれあい広場と多目的ホールの2つだけでも良いのではないのでしょうか。先ほどもお話したように、子育てふれあい広場はある程度の広さを確保していくとなると、1-Aには細々といろいろ入れるのではなく、2つしか入れないほうが良いと思います。 1-B、1-Cを商工会で活用していただければ良いと思います。
石川委員長	それでは、2-Aはコンビニで1階を商工会で活用していただくということですか。
福岡委員	そのようなイメージも含めて商工会で検討していただいても良いかと思いません。
村上委員	2-Aでは、カフェ・ベーカリーで照会をかけていただいていたと思うのですが、例えばミスタードーナツとかも良いのではないのでしょうか。それというのは、サラリーマンの方で飲んで遅く帰ってきたときなどにお土産を買って帰るといったシーンもよく見られます。割と営業時間が長いので良いのかなと思います。ハンバーガーショップは、近くにあるし、ミスタードーナツはスーパーへの出店ぐらいで固定店はないのでひょっとしたら良いのかなと思います。

事務局 (課長)	どの事業者さんにあたったかという話は、お答えを差し控えさせていただきます。どこにあたっていても、1日の売上げがいくら必要とはっきり言ったところもあります。お客さんが1日500人来店しないと採算が取れませんかと言ったところもあります。駅の乗降客が1日8000人ということですので、同じ人が往復利用したとすると実数では4000人程度で、そのうちの1割が来店すると400人となりますが、400人でも採算が取れませんかと言ったところもあります。ですので、ここはどうかあそこはどうかと言っても商売をする上ではそんなに大差はないかと思います。業界の中でも損益分岐点の高い低いがあることがわかりました。損益分岐点が低いというところに行っても非常に厳しいというのが現状であります。
石川委員長	例えば、コンビニがあってミスタードーナツがあった場合、売る商品が重なる部分があり、パイの取り合いとなるためにどちらかが出店されない。コンビニを最優先で考えると食べ物系などの商品がバッティングするものの誘致は非常に難しいということになります。
事務局 (課長)	業界にあたると必ず聞かれるのは、この施設の中に他に何が入りますかと聞かれます。そこで、ベーカリー洋菓子というのはコンビニとバッティングしますねと言われました。この施設での最優先はコンビニということですので、コンビニが出店に二の足を踏まないような対応が必要だと思います。そして、1度出てしまったところに再度同じ業種を入れるのは非常に難しくなりますので、コンビニが出店したら、そのコンビニが撤退しないように地域の皆さんにもご協力いただきたいと思います。
石川委員長	コンビニをどちらに入れたほうが、賑わいにつながるのか。また、残った方をどのように利用していくかを検討する必要があると思います。
黒木委員	アンケートではコンビニ希望者は、電車通勤者が多かったように思います。ペDESTリアンデッキを通過して駅に向かう方が多いので2-Aが良いと思います。そうすると朝と夕方の通勤時間帯には確実に売上げが見込めます。コンビニが撤退しないことを考えると希望している住民が希望しているところにあるのが良いと思います。
石川委員長	前のデータからすると、サンネットへ年間約10,000人の来庁者があります。日割りにするとそんなに多い人数ではないですが、プラス要因としては1つあると思います。
佐宗副委員長	1-Cにコンビニとありますが、そのコンビニは1-Cであったら手をあげるという感じでのいいわけですね。
事務局 (課長)	そうです。
藤野委員	それぞれどこのコンビニですか。
事務局 (課長)	聞き取りの時に名称を出さないで欲しいと言われていいますので言えませんが、公募の際に出ると言ったのに出ないではないかというイメージを皆さんに持たれるというのを避けていきたいという思いもあるのではないのでしょうか。公募をした際には応募してきた業者名を公表できます。
石川委員長	公募はいつ頃していくのでしょうか。

事務局 (課長)	一番最近似たような事例であったのは岡崎市で市役所の中にコンビニを入れる公募がありました。あそこの例でいくと公募の公告をして公募をするまでにかなりの日数を取っています。やはり業者が真剣に調査をする時間を取るために2か月程度の期間を取っていたようです。実際には、この検討委員会で結論をいただいてから平成25年度早々に事務手続きに進んでいく予定ですが、内部の検討会議でも検討を進めて早い時期に開始できるようにスケジュールを計画していきます。
石川委員長	2-Aか1-Cどちらにコンビニを入れるかを定める必要があります。もう1つは、公募をかけるから多分出てくれるから進めていこうという読みで行くわけですが、どちらか一方にしかコンビニは入らないわけで、もう片方をどうするかという検討が必要になります。商工会にお願いするのか、別の方法で探すのか、いずれにしても時間がかかります。
事務局 (課長)	例えば、2-Aでコンビニの公募をかけたとすると、2-Aでコンビニのレイアウトが決まった状態で、再度1-Cでコンビニが中にあるというコンビニ以外の業種を対象に公募をかける方法もあると思います。
青木委員	例えば、2-Aにコンビニを配置して残りの1-Cについては商工会にお任せするというのは可能ですか。
鳥居委員	できないことはないです。問題は、採算が合うかどうかであり、あまりにテナント料が高いと難しいということがあります。周辺の状況によって出たくても出られないこともありますので、周辺の状況でクリアしなければならないものはクリアしていかなければいけません。1-Cを商工会でやってほしいというのであればやります。ここでは地域の方のために安くて良い物を提供するための場所としていきます。
青木委員	私はそのような形で商工会にお任せしていけば良いと思います。
石川委員長	2-Aがいいのか1-Cがいいのか賛否を取っていきたいと思うのですがいかがでしょうか。
福岡委員	2-Aにした方が良いのか1-Cにした方が良いのかという商売上の判断を経営の素人集団で賛否とって決めていくのはいかがなものでしょうか。
石川委員長	公募をどちらで実施していくかということですね。
藤野委員	公募は両方ではないですか。
事務局 (課長)	例えば、2-A、1-Cどちらでも可という公募でやったとして、仮に1-Cに決まった場合は、2-Aの取扱いが非常に難しい状況になると思います。現時点ではコンビニが2-Aでも1-Cでもどちらでも公募に応じる状況にあります。ですので、我々としては2-Aにあった方が良いのか1-Cにあった方が良いのかを、どちらが儲かるのかは度外視して決めていただいたほうが良いと思うのですがいかがでしょうか。

岩本委員	<p>2-A、1-Cの公募の時期はどちらかによって違いが出てくるのでしょうか。サネットの機能は先行していく中では、当然そのとなりにある2-Aは早く入れたいという形になると思います。2階を早く埋めたいという思いがあるなら2-Aを先行していかなければならないし、先ほど事務局から仮に先行して1-Cが入ったら2-Aが困難な状況となるとありましたが、まだ意向調査が取れていない所に確認する時間的な猶予ができるということもあるので、時期の思いをもう少し伝えていただくと良いと思います。</p>
事務局 (課長)	<p>現場で打合せした業者も何件かあるのですが、2-Aよりも1-Cに興味を持たれます。その様な中で2-Aに出てくれるコンビニがあるのであれば、入ってもらうのも良いのではないかと思います。</p>
岩本委員	<p>毎日搬入があるので、動線はかなり気にされます。2階に配置された場合の動線はエレベーターを通さずに周りから回り込むというイメージですか。</p>
事務局 (課長)	<p>そうです。</p>
藤野委員	<p>建物の利活用のコンセプトがあるので、そのコンセプト上1階が良いのか2階が良いのか理由を明記して決めておいて、公募するのは両方して、その条件を比較して決定していく以外ないのではないのでしょうか。1階が先に決まると2階が決まりにくいという話がありますが、個人的にはコンビニは滞在型ではなく5分以内に用事を済ませていきます。カフェや喫茶店は、滞在型になります。2階の方が滞在型として望ましいと思います。私個人としては1階がコンビニ、2階がカフェのようなものが望ましいと思います。現状では買い手市場ではなく売り手市場なので両方を聞いて決断するのが良いと思います。</p> <p>いろいろな希望がアンケートで出てきましたが、三好丘全体の商売に対するポテンシャルがいかにか低いかを改めて確認したわけですが、人口22,000人いてなぜそのようなことになるかということ、たぶん儉約家が多い、名古屋のおしゃれな店に行ってしまうことが多い。むしろこれを機会にポテンシャルがないということ住民にアピールしていき、これから先暫定期間の間は空きがあっても良いので、なぜ空きがあるのかをみんなが考えて、今後ポテンシャルを高めていかなければならないと思います。</p> <p>2-Aは正面の1番良いところですので早くそれを埋めたいというのも理解できますので、条件が一番よければそれで良いと思いますが、仮に空いても閉店時間が早くても電気をつけておけば明かりの問題はクリアされるので、もう少し時間をかけて進めても良いと思います。元々カリヨンハウスを買っていただきたいという要望をしたのは、ほっておけばどこが購入するか分からず、マンションなどが建ってしまうということにならないようにというのが1番の願いでした。すぐに賑わいができるということは、大きな期待はできないと思います。ここで最悪のシナリオは食い止めることができ、時間の余裕ができたので拙速ではなく時間をかけていくという考え方もあって良いと思います。</p>

福岡委員	<p>私もだいたい同調します。カリヨンハウスの主要なところである、サンネットや図書機能、子育てふれあい広場、多目的ホールの考え方と配置は決まったので、例えば1-Cにコンビニが決まって2-Aが空いたとしてもそこをすぐに埋めないといけないということもないので、時間をかけていけば良いと思います。</p> <p>入ったコンビニがすぐつぶれてしまったら、業界に対して悪いイメージを抱かせるので、私はあまり素人がそこまで突っ込まないで、1-Cが商売のプロとして選ぶのであればそれが良いと思います。</p>
石川委員長	<p>公募のかけ方は、例えば条件はいろいろと考える必要がありますが、2-A、1-Cどちらでも良いというスタンスでコンビニに対して公募をかけていくのか。どちらかを先行してということになると、1回の公募が2か月、3か月であり、両方決まるのに半年かかります。</p>
黒木委員	<p>議論が堂々巡りになってきたので、決を採ったらどうでしょうか。コンビニをどちらの場所にするかの優先順位と、公募を優先順位どおりにやるのかどうするかという2つの決を採ったらどうでしょうか。</p>
事務局 (課長)	<p>公募を同時にかけることは可能です。カリヨンハウスにコンビニを募集しますとして、場所は2-Aと1-Cを明示してこの2つのエリアに1社募集するとすれば、提案書で営業場所が明記され支払う賃料も書かれて出てくるので、それを審査していくことができます。</p>
石川委員長	<p>賃料というのはあらかじめ決めておくものではないのですか。</p>
事務局 (課長)	<p>あらかじめ決めておくのは最低賃料です。</p>
黒木委員	<p>賃料とすると1階と2階の相場は違ってくると思うのですが、その取扱いはどうするのですか。</p>
大塚委員	<p>カリヨンハウスの状況からすると微妙なところだと思います。</p>
藤野委員	<p>みよし市の相場はいくらぐらいですか。今朝の新聞だと名古屋駅前が月坪10,000円に下がってきているという記事がありました。メグリアで借りていたサンネットは逆算すると月坪12,000円で借りていましたよね。</p>
事務局 (部長)	<p>サンネットは、駐車場など含めると月坪10,000円です。</p>
藤野委員	<p>20年前の価格だったわけです。賃料は決めていただければ良いのでこの辺で置いておいて、公募は同時が一番いいのではないですか。</p>
大塚委員	<p>同時なら同時で賃料が高い方でいいのではないのでしょうか。</p>
石川委員長	<p>同時と言っても2-Aと1-Cは同じ条件ではないですよ。</p>
黒木委員	<p>広さも違います。</p>

石川委員長	<p>その審査は大変難しいのではないのでしょうか。</p> <p>今のところ3つの案があり、2-Aをコンビニとして公募するのか、1-Cをコンビニにして公募するのか、2-Aと1-Cどちらでも良いのでというスタンスで公募するのかというのがあります。</p>
岩本委員	<p>みなさんの中では、2-A、1-Cどちらかにこだわりはあるのでしょうか。</p>
石川委員長	<p>みなさんそれぞれ配置する場所によって期待する効果も違うと思いますが、私は明かりの面から2-Aかなとは思っています。優先度だけ決めていくということではいかがでしょうか。</p>
大塚委員	<p>黒木委員が言われていましたが、ニーズがあったのは2階であったというのは1つ考えるところだと思います。確かに駅の送迎は多いですが、送迎しているときにコンビニを利用するかというとあまり利用しません。駐車場のアクセスも本当にしっかりできるのか不安感があります。名鉄協商の駐車場に停めてといっても、普通コンビニに行くのに有料の駐車場は利用しないと思います。同時に公募が良いのですが、ニーズからいくと2-Aかなと思います。商売として長続きするためにはお客さんのベースがあることは大事ですので、ペDESTリアンデッキを使う通勤客が見込める2階が良いとは思いますが、商売のプロに判断してもらうという意味でも同時公募が良いと思います。お任せするなら同時だし、選択するなら2階という意見です。</p>
黒木委員	<p>アンケートの中には、電車利用者はコンビニが欲しいという意見でしたが、車で移動される方はコンビニはいらないという意見の方が多くあり、三好丘地区では車で5分いけばどこかにコンビニがあり、必要がないということだと思います。ですので、送迎に行く人は駐車場の使いにくい駅前のコンビニには行かないと言えると思います。</p>
青木委員	<p>2-Aと1-Cは、各1社希望されているので、2階でもやればできるという判断で希望されているということですね。</p>
事務局 (課長)	<p>そうだと思います。</p>
石川委員長	<p>前回の検討委員会で1-Cの方にコンビニという意思決定をしてきた中で、状況が変化してきたので2-Aも含めて意向を確認したいと思います。</p>
山根委員	<p>両方公募したときはどちらかを決めるのはどこで決めるのですか。</p>
石川委員長	<p>同じ条件でやって優劣付けがたい場合、どうするのですか。</p>
事務局 (課長)	<p>提案型の公募になりますので、審査会を設置して決定することになります。</p>
藤野委員	<p>1つに絞ると競争原理が働かないです。</p>
大塚委員	<p>こちらが選んで決めるのか、公募で自由に両方を比較検討するなら意義があると思いますが、選んでもらうなら2つ用意しておけば良いと思います。</p>

藤野委員	ヒアリングで2社あったということですが、来週になったら分からないのがこの業界だと思います。浄水駅周辺のコンビニでもここ1年2年で撤退していますので、それだけ出入りが激しい業界だと思います。
石川委員長	審査するための審査委員会をつくるということですが、メンバーはどのようになりますか。
事務局 (部長)	内部で審査会を立ち上げていきます。
石川委員長	手段として両方公募をかけても良いかもしれませんが、検討委員会としての気持ちだけは残して置きたいと思います。
大塚委員	提案の中には賃料だけなのでしょうか。それとも契約期間も入ってくるのですか。
事務局 (課長)	他の例を見ると、途中で撤退ができないような手立てをしているところもあります。
大塚委員	2社フリーの条件で有利な提案が出てくるかどうか見たほうが良いと思います。こちらが委員として決めたいというのであれば決めても良いと思います。
石川委員長	委員会の意向を残したいと思います。「1-Cにコンビニを優先する。」、「2-Aにコンビニを優先する。」、「1-C、2-Aどちらでもいい。」
	「1-Cにコンビニを優先する。」3人 「2-Aにコンビニを優先する。」6人 「1-C、2-Aどちらでもいい。」4人
石川委員長	やり方については、公募の中で検討していただきたいと思いますが、委員会としては2-Aにコンビニを優先するしたいと思います。 それでは、サンネット改修工事の図面について説明をお願いします。
山根委員	エレベーターの内寸はどれくらいですか。
事務局 (次長)	吹き抜け部分は上下に梁が通っていますので、大きいのは入りませんが、車椅子対応のエレベーターとなります。
岩本委員	荷物は想定していないということですか。
事務局 (次長)	詳細は手元に資料がありませんので、お答えできませんが、荷物を載せてはいけないということはないと思いますので、空いている時にはご利用いただけるとと思います。
大塚委員	2階に物販が入ったとき2階のバックヤードへの搬送は、そのエレベーターを利用していくということですか。
事務局 (次長)	2階に物販が出店した場合は、東側の学習塾横の道路からペDESTリアンデッキを横断していくことによって、直接階段など利用なく搬入できます。
黒木委員	情報サービスコーナーの所で児童書コーナー、キッズコーナー、絵本コーナー、閲覧スペースとありますが、学習コーナーはどうなったのでしょうか。7月25日に送付されたカリヨンハウスの利活用の提案に対しての中で、なぜサンネットを移設するのかという部分で、閲覧コーナー、学習コーナーが確保できないことがあげられています。

事務局 (次長)	工事で設置する備品や家具のみを図示しています。現在、家具についても精査している状況です。閲覧スペースにあるのは固定の机で間仕切りをすることを予定しています。また、閲覧スペースには通常の4人がけや6人がけの机を配置していきます。さらに、児童書コーナーでも児童書を読むことができる閲覧用の机を備品として設置していきます。
黒木委員	これはあくまでコーナーであって室ではないということですか。
事務局 (次長)	学習室ではありません。あくまでもサンネットの移設ですので、市民サービスコーナーと情報サービスコーナーを合わせてのサンネットという扱いで進めさせていただきます。
藤野委員	プランニングとスケジュールをいただきました。この平面計画の中でブラウジングコーナーのようなものは、どこかに設けられることになるのですか。
事務局 (次長)	情報コーナーの所は、証明書発行を待ついただく待合所のような形で家具を設置していきます。そこには新聞などの書架を設置しますので、そこで見ていただくなり、閲覧スペースでも見ていただくことが可能となるように家具の選定を進めています。
藤野委員	キッズコーナーと児童書コーナーは年齢で分けてあるのですか。
事務局 (次長)	図書コーナーを担当します図書館とも打合せをした中で、年齢で分けたスペースを設置しています。できる限りガラスパーティションなどを設置して音の面でも配慮していきたいと思います。
藤野委員	就学前と後で分けてあるのですか。
事務局 (次長)	キッズコーナーは、就学前児童対象で、児童書コーナーは、小学生対象としています。閲覧コーナーは、一般ということで勉強をしていただいたり本を読んでもいただいたりするスペースと考えています。
藤野委員	子育てふれあい広場にはそのような機能を持たせないということですか。
事務局 (次長)	子育てふれあい広場は、親子で来ていただいて遊んでいただくのがメインで、そこに相談員がいて子育ての相談などに対応していくことを考えています。遊び道具などの設置をしていきますが、一部絵本なども必要と考えています。サンネットと子育てふれあい広場は整備時期がずれるので、子育てふれあい広場の中で使い勝手の面から望ましいとなれば、一旦はサンネットで整備しておきますが、そのまま子育てふれあい広場に移動して、空いたスペースを閲覧スペースなどにしていくことも可能とも考えています。
藤野委員	キッズコーナーは、就学前の子どもが自分で読むことを想定しているのか、親が読み聞かせることを想定しているのか。読んで聞かせるとなると音が出ますので、子育てふれあい広場に設置するべきだと思います。

事務局 (次長)	キッズコーナーは、子ども自身が読んだり、親子で読んだりといった通常の図書館と同じような利用を考えています。図書コーナーではできればお話会もやりたいという要望もありましたのでこのような形となっています。藤野委員よりご意見いただいたように音の問題はありますので、子育てふれあい広場ができてキッズコーナーが確保できるようであれば、利用状況にもよりますが、そちらに移動していくことも可能だと思います。
福岡委員	トイレは、1フロアに1か所になりますか。
事務局 (次長)	今あるトイレをもう少し広げて、多目的トイレを新たに設置して改修する予定です。
福岡委員	男子トイレは、小便器が2つ、大便器が1つであり不足するのではないのでしょうか。
事務局 (次長)	今ある施設を改修して、バリアフリー化していく中でご不便をおかけする時もあるかもしれませんが、1階のトイレも含めてご利用いただければと思います。 現状のトイレ数に多目的トイレ分が増加することになります。
福岡委員	現状は、ほとんど利用がないのではないですか。
事務局 (次長)	喫茶カリヨンがあって、公団の事務所があったときでもこのトイレ数で対応していましたし、既存の水回りを活用しながらの改修ですのでご理解いただきたいと思いません。
青木委員	中央図書館と数は同じで、図書館はあまり利用されていないようです。
藤野委員	事務室や図書コーナーで滞在される人は、何人ぐらいを想定していますか。
事務局 (次長)	家具は、50人ぐらいが座れるように選定を進めています。キッズにもコーナーをつくるなどもしていきたいと考えていますが、充分いけるかなと考えています。図書についても現在のサンネットが、8000冊の蔵書を持っています。その8000冊が収納できるような書架を設置していく予定です。
黒木委員	7月25日の資料では、開架5000冊、閉架5000冊の合計10000冊とありましたが、変更があったのですか。
事務局 (次長)	設計の中でスペースを検討している段階で、8000冊と現在でもサンネットで貸し出しとして動いている約3000冊をあわせて10000冊強の蔵書は確保していくとして設計を進めてきました。閉架については仕分けスペースなどを利用していく予定ですが、閉架は数えなくてもこの前お話しした蔵書数は確保できる予定です。
山根委員	アプローチヤードの上にある自転車置き場には、50台は欲しいのですが、どれぐらいを予定していますか。
事務局 (次長)	まだ、設計中のため何台となるかはわかりませんが、50台以上にはなります。
石川委員長	まだ全ての配置が決まったわけではありませんので、情報がありましたら事務局に情報提供をお願いします。

藤野委員	<p>資料としていただいたカリヨンハウスの改修スケジュールの中で、来年の4月に一部オープンするようにスケジュールが組まれています。工事着工は11月下旬に着手、工事設計業務は随意契約をするのですか。</p> <p>エレベーターの新設などを含めて防火区画の変更があったりすると確認申請をやらなければならない可能性があると思いますが、手続きの状況はどのようになるのですか。</p>
事務局 (次長)	<p>工事業者決定の方法ですが、一般競争入札で行う予定です。時期的には11月末から12月にかけて決定して、12月中旬には着工していくイメージですが、まだ詳細を詰めている段階ですので、ずれこむ可能性があります。4月のオープンには間に合わせる予定です。</p> <p>確認申請について、エレベーターも確認申請がいりますので、業者を決めながら早々に出して、許可を取っていきます。</p>
藤野委員	<p>エレベーターが1期工事に入っているのと、確認申請手続きはこのスケジュールの中でおさめるということよろしいでしょうか。</p>
事務局 (次長)	<p>はい。</p>
石川委員長	<p>次回が最終となりますが、それまでに残りの部分の配置のイメージを事務局で作成していただいて、それに基づいて検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (課長)	<p>今回は、市役所で1月11日金曜日15時を予定しています。</p>